

研究機関名：東北大学

| |
|---|
| 受付番号： 2014-1-291 |
| 研究課題名 Oligometastases 状態の転移性肺腫瘍に対する体幹部定位照射療法の 4 施設共同遡及的研究 |
| 研究期間 西暦 2014 年 9 月（倫理委員会承認後）～ 2017 年 3 月 |
| 対象材料 <input type="checkbox"/> 病理材料（対象臓器名 ） <input type="checkbox"/> 生検材料（対象臓器名 ） <input type="checkbox"/> 血液材料 <input type="checkbox"/> 遊離細胞 <input checked="" type="checkbox"/> その他（ 診療情報 ） |
| 上記材料の採取期間 西暦 2004 年 1 月～ 2014 年 4 月 |
| 意義、目的 転移性の悪性腫瘍には化学療法などの全身治療が選択される場合が多いが、少数個の転移では局所療法によって長期生存が可能な場合があり、その概念は oligometastases と呼ばれる。さらに近年では oligometastases のうち、少数個の転移のみで原発巣の制御された状態を oligo-recurrence、少数個の転移だが原発巣の制御されていない状態を sync-oligometastases と区別するようになった。 これまで oligometastases 状態の転移性肺腫瘍には手術による外科的切除が選択されることが多かった。近年になり高精度で強力に照射可能な体幹部定位放射線療法が局所療法として選択されることも多くなっている。しかしながらその治療成績は少数の報告があるのみである。 今回、oligometastases 状態の転移性肺腫瘍に対して体幹部低位放射線療法を行った症例をがん診療連携拠点病院 4 施設共同で集積し、データ解析を行い、治療成績と晩期有害事象を明らかにし、さらに治療成績に影響を与える因子を検討する。 |
| 方法 2004 年から 2014 年までに東北大学病院放射線腫瘍科にて定位放射線治療を行った転移性肺腫瘍の症例に対し、診療情報から以下の項目を調査する。 調査項目：年齢、原発部位、原発癌の種類、原発巣の制御状態、原発癌の病理組織型、臨床病期、放射線治療方法（線質、エネルギー、1 回線量、総線量、分割回数、全治療期間）、DFI (Disease Free Interval：原発巣制御後から oligo-recurrence までの期間。sync-oligometastases では 0 か月となる)、転移、/再発部位（可能なら、S1, S2 などの肺区域、転移/再発個数、初回再発部位、初回再発年月日、転帰 1（生/死=0/1；年月日）、転帰 2（局所再発なし/あり= 0/1；年月日）、転帰 3（再発なし/あり= 0/1；年月日）、初回再発部位、SBRT 後の再発時治療内容、最終観察年月日、晩期有害事象（RTOG/EORTC のスコアによる Grade、部位（肺、皮膚、その他、時期））。 得られたデータは匿名化のうえ研究事務局に送付する。4 施設から集積されたデータは主任研究者にて後ろ向き臨床統計が行われる。 |
| 問い合わせ・苦情等の窓口 仙台市青葉区星陵町 1-1 東北大学病院放射線腫瘍科 山本 貴也 TEL 022-717-7312 |